

平成二十三年七月四日提出
質問第一九三号

自動体外式除細動器（AED）の重要性に関する質問主意書

提出者 木村 太郎

自動体外式除細動器（AED）の重要性に関する質問主意書

時間を争う救急蘇生の現場に居合わせた非医療従事者が、安心して、積極的に救命に取り組めることを目的として使用されている自動体外式除細動器（以下AEDという）は、これまで傷病者の安全確保に大いに貢献し、特に少子・高齢化が進展する中、我が国の安全安心の確保に努め、救命率の向上を図っていくことが国民的課題となっているところである。

被災地の某総合病院の調査によると、東日本大震災の発生後から四月末まで、同病院において震災関連死亡とみられる被災者二十九人中、十三人は不整脈が原因で死亡、病院到着前にAEDを迅速に使用すれば救命できたという。自宅近くにAEDが設置された場所があったが使われなかった方、AEDが近くになかった方など亡くなった方に対して慚愧に耐えないが、大災害などの直後においては、心身のストレスによって不整脈が多発することから、AEDの設置増加と今後も更なる効果的な知識や技能の習得をするための講習を実施し、国民の理解の促進と広く社会に普及させ、またアクセス向上のために、国、地方公共団体、関連団体、学会等が一体となって取り組まなければならないと考える。

従って、次の事項について質問する。

- 一 これまでの被災地における被災者によるAEDを使用した病院到着前救護の活動状況はどのようなになっているのか、被災地の沿岸部と内陸部別、蘇生者・死亡者数まで、できるだけ具体的に示されたい。
- 二 被災地の不特定多数が利用する施設等において、AEDを設置されている場合につき、配備されていること及び使用方法を明示している数はどのようになっているのか、被災地別、被災前後まで分かる範囲で示されたい。
- 三 二に関連し、AEDの存在を明示するマーク・標識の開発状況について、被災前後ではどのようなになっているのか分かる範囲で示されたい。
- 四 三に関連し、国民のアクセス向上に資するため、AEDの存在を地図、公共の案内板の地図、及び携帯端末のマップ、ナビなどに明示するAEDマップを策定、促進すべきと考えるが、菅内閣の見解如何。
- 五 一～四に関連し、AED使用による救命率向上に向けて、国は関係団体等と連携し、今後どのような対策を講じていくのか。またその対策は、平成二十三年度予算では、どのように反映されているのか、菅内閣の見解如何。

六 総務省消防庁の調査によると、心肺停止の人に非医療従事者がAEDを使用した場合、一ヶ月後の生存

率は四十二・五パーセントで、行わなかった場合の九・七パーセントに比べ、四倍以上の救命効果を発揮するとしている。AED使用による救命率は当然百パーセントを目指すべきと考えるが、国としては救命率の目標をどのように設定しているのか、菅内閣の見解如何。

右質問する。